

平成27年度 福井県立ろう学校 学校関係者評価書

<p>(問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価書の成果と課題が適切か。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策、向上策が適切か。 ・その他
<p>(意見を伺った方)</p> <p>福井県聴覚障がい者協会（1名） 元本校教員（1名） ろう学校PTA会長（1名） PTA副会長（3名）</p>
<p>(意見欄)</p> <p><教育課程・学習指導>以下の報告について、特に御意見なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者・教職員ともに、家庭学習に対する意識が向上した。今後は、継続するために個々に応じた具体的課題や手立てを学部全体で協議し、実践していきたい。
<p><生徒指導></p> <p>Q：救急救命訓練に関連して、スマートフォンのメール登録の指導はしているのか？</p> <p>A：学校からメール登録に関する案内は出している。個人によってスマートフォンの機種が違うため、家庭で登録を行ってほしい。</p>
<p><保健管理></p> <p>Q：小学部の清掃の時間、上級生が下級生に手話で指導している場面を見て、嬉しく思った。子どもたちは清掃の目的を理解して取り組んでいるのか？</p> <p>A：学級や学部、それぞれの単位で指導している。例えば、百周年記念式典の前の特別掃除では、大勢のお客さんを迎えるための準備の一環として、子どもたちは理解していた。</p>
<p><センター的機能></p> <p>Q：児童生徒数減少という現状の中、相談に出ていて本校への入学を希望するお子さんはいないのか？</p> <p>A：本校に通うには遠方であること、保護者が地域の学校に通わせたいと願っていること、4月から障害者差別解消法が施行されるなど諸処の事情から、難聴のお子さんの数は減っていないものの、本校に入学を希望するお子さんは少ない。進学先の学校は受入れ体制を整える必要があるため、私たちを含め、いろいろな立場の者が集まって移行支援会議を行っている。</p>
<p><図書・研究・情報></p> <p>Q：手話も分からない、音としても分からない幼稚部や小学部の子どもたちに、どうやって読み聞かせをすればよいのか？</p> <p>A：例えば絵本で、絵と文字を指さしながら補足説明を加えてゆっくり読み進めていくなど、それぞれの子どもの状態に合わせたやり方がある。方法を各家庭に紹介するようにしている。</p>
<p><寄宿舎指導>以下の報告について、特に御意見なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画に基づいて個々に応じた生活指導を行ってきた。自ら行動しようという意識をさらに高めていけるように努めていきたい。 ・個に応じた「ことば」の獲得や、場に応じた「伝え方」の指導を行ってきた。担任との連携、地域の関係機関との情報交換などを行い、安定した生活が送れるように支援していきたい。
<p><全 体></p> <p>O：ろう学校と聴覚障がい者協会とが、できるだけ協力していきたい。例えば、地域の学校で要約筆記等が必要な場合に連携をとるなど、いろいろな方法が考えられる。</p> <p>O：成人ろう者たちの学校への期待は大きい。その期待に応えるためにも、引き続き視覚支援を重視した授業改善や授業力の向上に努めてほしい。</p> <p>A：来年度は、教職員と保護者向けに校内での手話講座の開催を予定している。他にも、成人ろう者と子どもたちが関わる機会を増やすなど、聴覚障がい者協会と連携しながら行っていきたい。</p>
<p>◎学校関係者評価を踏まえた今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害をもつ当事者ならではの貴重な御意見や御指導、保護者の方々の御意見を真摯に受け止め、次年度の重点目標や具体的取組に生かしていきたい。

